



タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2306		
科目名	ロジスティクス論		
担当教員	工藤 聡一		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	金 3		
講義室	1502	単位区分	選必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■DPコード：学修のゴールを示すディプロマポリシー（DP）との関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現・数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、問題の解決につなげることができる。</p> <p>■CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1 学識と専門技能（60%） I1 理解・分析と読解（30%） I2 量的分析（10%）</p>		
教員の実務経験	2015年4月から2021年3月、国土交通省の認可を受け全国の軽自動車検査業務を行っている軽自動車検査協会の非常勤理事として、モビリティの安全管理という準公的実務に関与しました。ロジスティクスとモビリティとは密接不可分であり、ICTを活用した安全施策の進捗状況などに関する実務上の知見と経験を活かして、講義を行います（第4回、第5回）		
成績ターゲット区分	<p>■成績ターゲット：能力開発の目標ステージとの対応 2 進定期 ～ 3 発展期</p>		
科目概要・キーワード	<p>東日本大震災で明らかとなったように、大規模な自然災害の発生に際して、災害によって道路、公共交通機関、通信システムなどのインフラが機能不全に陥った被災地域に対して、必要な物資、救援機能の種類と量を特定し、迅速にこれらを現地投入し、さらに地域内で必要とされている場所に送り届けることが不可欠です。そのためには、ハード及びソフトの両面で、平時においてどのように流通システムを準備し、また発災時においてどのようにそれを運用すべきか考えておくことが必要となります。本講は、災害に強いレジリエントな流通・輸送基盤、広域での運用・調整能力、情報通信システムの構築に向けて、現状を概観して課題を抽出し、分析を加えて、法制度を含めたロジスティクスの今後のあり方を考えることを目的とします。 授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するためにオンライン授業（オンデマンド型またはライブ配信型）を取り入れます。</p> <p>■キーワード：物流、サプライチェーン、救援物資</p>		
授業の趣旨	<p>■副題 現代の消費や社会的分業の基礎となっているモノと情報の流れの仕組みを学び、「ロジ」に強い社会人、危機管理担当者になる。</p> <p>■授業の目的 危機管理担当者に求められるロジスティクスの運用能力を基礎づけるものとして、平時におけるビジネス・ロジスティクスの効果的な実施、さらには大規模災害等の有事におけるソーシャル・ロジスティクスの機能的な実施を支える思想、概念、制度を把握し、その内容を適切に説明できるようになることを目的とします。</p> <p>■授業のポイント</p>		

	<p>ロジスティクスとは、原料の調達から製品の生産・輸送・販売に至る過程を統制し企業活動を合理化するシステムをいいます。これは物流やサプライチェーンの要素を含んで現代の重要な社会基盤の一つとなっていますが、当たり前過ぎて普段その重要性を認識することは多くありません。しかし、ひとたび大災害が発生しロジスティクスが破綻すると、生産と流通の過程に混乱が生じ、私たちは深刻な供給不足を体感することになります。もとより、緊急の需要に応ずべき救援物資の供給は、救援機能の種類と量を特定しこれを迅速確実に現地に投入するという、ロジスティクスの応用局面です。このように、生活者としても、危機管理担当者としても、私たちは平時からロジスティクスの在り方を考え、かつ発災時に望まれる対応をできる限り具体的にシミュレートしておくことが求められているといえます。そこで本講では、ロジスティクスの一般的な機能を学ぶことから始めて、災害に強いレジリエントなロジスティクスの構築に向けた理論的検討を行うこととします。</p> <p>ロジスティクスは、元来は補給、後方支援等に関する軍事戦略の一部を占める「ミリタリー・ロジスティクス」の議論でしたが、今日では、生産過程から消費課程に至る製品の物理的な流れ及び関連情報を統制し合理化する企業システム、すなわち「ビジネス・ロジスティクス」の文脈で一般的に用いられています。また、災害救援や国際人道支援などにおける物資輸送は「ソーシャル・ロジスティクス」として新たな範疇を形成しています。ここではビジネス・ロジスティクスを中心に、ドメスティック/グローバル、マテリアル・フロー/インフォメーション・フローの視点を適宜選択して、ロジスティクスの実態面・現象面を総合的に考察することになります。</p>				
<p>総合到達目標</p>	<p>■ロジスティクスに関する流通論ないし交通論の知見を学識として表現することができる。 ・身近な仕組みにおけるロジスティクスの機能を考察対象として認識することができる。(第1～3回) ・ロジスティクスの機能の活用可能性を、自己の経験や目標と関連付け、学修意欲につなげることができる。(第1～3回) ・ロジスティクス概念の発生と拡張について、時代背景を踏まえて的確に説明することができる。(第1～3回) ・物流の6機能に関する知識を取り出し、特定のビジネス・モデルに適用して、分析することができる。(第4回、第5回)</p> <p>■文理的及び量的な理解力・分析力を動員して、ロジスティクスをめぐる社会的な課題を適切に考察することができる。 ・ロジスティクスに関する主要論点を考察するテキストや資料について、用語の意義や文脈を適切に把握しつつ知識として取り込むことができる。(第1～14回) ・ロジスティクスに関する一般的知識をその現代的課題の解決のための方略に適用することができる。(第6～15回) ・数値データを効果的に扱い、ロジスティクスの動態を適切に分析することができる。(第5回)</p>				
<p>成績評価方法</p>	<p>■レポート2回(40%)：適用ルーブリック I1・I2・E1 (評価の観点) 統計情報から運送モードを特徴付ける論述問題、及び資料を読み説きインコタームズに基づくコスト分析を行う論述問題により、危機管理に必要な学識と情報分析力とを問います。理解が正確かどうか、答案の構成と表現が適切かどうかを評価します。 (フィードバックの方法) 実施後、出題意図、模範解答を確認しつつ、関連の知識をおさらいします。</p> <p>■レポート1回(60%)：適用ルーブリック E1 (評価の観点) 過去の大規模災害に学びつつ、実効的な災害ロジスティクスを提案することを内容とする論述問題により、危機管理に必要な知識・技能を確認します。発想の豊かさ、知識の正確さ、そして答案の構成と表現が適切かどうかを評価します。 (フィードバックの方法) 実施後、模範解答を示しつつ、関連の知識をおさらいします。</p>				
<p>履修条件</p>	<p>特にありません。</p>				
<p>履修上の注意点</p>	<p>■ロジスティクスは私たちにとって極めて身近なものです。受講に先立って、コンビニにいつも豊かに商品が並んでいる仕組み、宅配便が安価かつ便利に利用可能な理由について、具体的に考えておきましょう。</p> <p>■近時「学び」の仕組みの理論的な解明が進んできており、本講義の運営上も、そうした知見を取り入れます。すなわち、講義をベースとしながらもワークショップ的な手法を加味し、学習者が既に身に付けている知識と意識的に関連付けて、新たな知識の獲得のための理解を活性化させます。また、各種のグラフィックオーガナイザーを用い、学習過程を可視化し、新たな知識の摂取と定着を促進させます。詳しくは、ガイダンスで説明します。</p>				
<p>授業内容</p>	<p>本欄記載事項の主語は原則として皆さんです。よく読んで準備をし、主体性をもって、授業に臨みましょう。</p> <table border="1" data-bbox="454 1955 1489 2157"> <thead> <tr> <th data-bbox="454 1955 507 2000">回</th> <th data-bbox="507 1955 1489 2000">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="454 2000 507 2157">1</td> <td data-bbox="507 2000 1489 2157"> ①授業テーマ ガイダンス(全体テーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明)、イントロダクション、身近なロジスティクス(1)「宅配便」 ②授業概要 </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス(全体テーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明)、イントロダクション、身近なロジスティクス(1)「宅配便」 ②授業概要
回	内容				
1	①授業テーマ ガイダンス(全体テーマ、授業の進め方、成績評価の仕方等の説明)、イントロダクション、身近なロジスティクス(1)「宅配便」 ②授業概要				

	<p>(ガイダンス) 授業のテーマや内容、スケジュール、成績評価の方法について確認する。</p> <p>(イントロダクション) ロジスティクス概念の生成とビジネス・ロジスティクス、ソーシャル・ロジスティクスの展開を概観する (E1, I1)。</p> <p>身近なロジスティクスとして、宅配事業の仕組みに目を向け、ロジスティクスへの関心を育てる (E1)。なお、この点について、ワークショップを行うことがあります。</p> <p>③予習 (120分)</p> <p>PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』(1)「イントロダクション」を読み、メモを取って受講ノートを準備する。</p> <p>④復習 (120分)</p> <p>PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、フォームA「KWLチャート(1)『ロジスティクス』」を完成させる。</p>
2	<p>①授業テーマ</p> <p>ロジスティクスと流通・サプライチェーン・マネジメント、身近なロジスティクス(2)「コンビニ」</p> <p>②授業概要</p> <p>ロジスティクスと関連付けて論じられることの多い流通(商的流通及び物的流通)並びにサプライチェーン・マネジメントの意味を考える (E1, I1)。</p> <p>身近なロジスティクスとして、コンビニエンス・ストアの共配及びPOSシステムに目を向け、ロジスティクスへの関心を育てる (E1)。なお、この点について、ワークショップを行うことがあります。</p> <p>③予習 (120分)</p> <p>PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』(2)『ロジスティクスと流通・サプライチェーン・マネジメント』を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームB「KWLチャート(2) コンビニ配送」のK欄及びW欄に記入する。</p> <p>④復習 (120分)</p> <p>PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、フォームF「VENNダイアグラム『ロジスティクスvs物的流通』」及びフォームB「KWLチャート(2) コンビニ配送」を完成させる。</p>
3	<p>①授業テーマ</p> <p>ロジスティクスと物流機能、身近なロジスティクス(3)「ベリー輸送」</p> <p>②授業概要</p> <p>ロジスティクスと物流機能(輸送、保管、流通加工、包装、荷役、情報)の意味を考える (E1, I1)。</p> <p>身近なロジスティクスとして、旅客機による貨物輸送、及びフォワードによる混載業務に目を向け、ロジスティクスへの関心を育てる (E1, I1)。なお、この点について、ワークショップを行うことがあります。</p> <p>③予習 (120分)</p> <p>PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』(3)「ロジスティクスと物流機能」を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームC「KWLHAQチャート フォワード」のK欄及びW欄に記入する。</p> <p>④復習 (120分)</p> <p>PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、フォームG「FRAYERモデル『フォワード』」を完成させる。</p>
4	<p>①授業テーマ</p> <p>ロジスティクスと物流事業(1)貨物自動車運送事業、宅配便事業、鉄道運送事業</p> <p>②授業概要</p> <p>運輸統計資料をもとに各運送モードの特徴を考察する (I1)。</p> <p>貨物運送自動車事業、宅急便事業及び鉄道貨物輸送事業の各々の事業区分及び事業特性について考える (E1, I1)。なお、この点について、ワークショップを行うことがあります。</p> <p>担当教員の実務経験を踏まえて、モビリティに関する規制の側面を重点的に講義します。</p> <p>③予習 (120分)</p> <p>PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』(4)「ロジスティクスと物流事業(1)」を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。</p> <p>④復習 (120分)</p> <p>PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、フォームG「FRAYERモデル『運送モード比較』」を完成させる。</p>
5	<p>①授業テーマ</p> <p>ロジスティクスと物流事業(2)海上運送事業、航空運送事業、利用運送事業、倉庫業</p> <p>②授業概要</p> <p>内航海運・外航海運にかかる海上運送事業、航空運送事業、利用運送事業、倉庫業の各々の事業区分及び事業特性について考える (E1, I1)。</p> <p>担当教員の実務経験を踏まえて、モビリティに関する規制の側面を重点的に講義します。</p> <p>③予習 (120分)</p>

	<p>PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』(5)「ロジスティクスと物流事業(2)」を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。</p> <p>④復習(120分) PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。</p>
6	<p>①授業テーマ ロジスティクスと物流事業(3)グローバル事業展開</p> <p>②授業概要 貿易実務を支える決済、税関、保険等の制度及びグローバル・サプライチェーン・ロジスティクスの現状と将来展望について検討する(E1, I1)。 貿易実務の知恵であるインコタームズを用い、売買におけるコストとリスクの分担の仕組みを設例に当てはめて考える(I1)。 第1回から第5回の授業のまとめを兼ね、第1回レポートを設定します。1週間後を締め切りとし、統計情報をもとに運送モードを特徴付ける論述課題とします。締切後、模範解答の説明を含む問題解説を共有します。</p> <p>③予習(120分) PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』(6)「ロジスティクスと物流事業(3)」を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。</p> <p>④復習(120分) PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。</p>
7	<p>①授業テーマ ロジスティクスと事業戦略(1)マーケティング</p> <p>②授業概要 商品開発や販売戦略にインパクトを与えるマーケティングとロジスティクスとの関係について考える。3PLの実務についても考察の範囲を広げる(E1, I1)。</p> <p>③予習(120分) PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』(7)「ロジスティクスと事業戦略(1)」を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。</p> <p>④復習(120分) PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。</p>
8	<p>①授業テーマ ロジスティクスと事業戦略(2)ICT, IoT</p> <p>②授業概要 ロジスティクスを支える受発注システム、在庫管理システム、作業管理システムといったICTの仕組みについて考えるほか、IoTないしロジスティクス4.0といわれるロジスティクスの高度化の方向性を確認する(E1, I1)。</p> <p>③予習(120分) PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』(8)「ロジスティクスと事業戦略(2)」を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。</p> <p>④復習(120分) PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。</p>
9	<p>①授業テーマ ロジスティクスと事業戦略(3)環境・犯罪・テロ対策</p> <p>②授業概要 今日のロジスティクスの重要課題である環境問題、及び資源保護にかかるリバース・ロジスティクスについて考える。海上及び航空運送分野のセキュリティ問題(地政学的問題、犯罪・テロ対策)にも、考察の範囲を広げる(E1, I1)。</p> <p>③予習(120分) PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』(9)「ロジスティクス・インフラと国家戦略」を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。</p> <p>④復習(120分) PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。</p>
10	<p>①授業テーマ ロジスティクスと国家戦略</p> <p>②授業概要 ロジスティクスの巧拙は企業競争のミクロな問題に止まらず、国家の浮沈に関わるマクロな問題としても認識されることから、各国のロジスティクス政策を踏まえて、我が国のあるべき政策について考える(E1, I1)。</p> <p>③予習(120分) PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』(10)「災害ロジスティクス(1)」を</p>

	<p>読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。</p> <p>④復習（120分） PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。</p>
11	<p>①授業テーマ ロジスティクスとインフラストラクチャー</p> <p>②授業概要 ロジスティクスを支える施設インフラ、技術インフラ、及び制度インフラの現状と課題を考察する（E1, I1）。</p> <p>第6回から第10回の授業のまとめを兼ね、第2回レポートを設定します。1週間後を締め切りとし、資料を読み解きインコタームズに基づくコスト分析を行う論述課題とします。締切後、模範解答の説明を含む問題解説を共有します。</p> <p>③予習（120分） PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』（11）「災害ロジスティクス（2）」を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。</p> <p>④復習（120分） PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。</p>
12	<p>①授業テーマ 災害ロジスティクス（1）サプライチェーンの寸断と復旧</p> <p>②授業概要 阪神淡路大震災、東日本大震災その他の大災害におけるサプライチェーンへの影響を事例分析するなかから、災害ロジスティクスの要素を抽出する（E1, I1）。</p> <p>③予習（120分） PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』（12）「災害ロジスティクス（3）」を読み、メモを取って受講ノートを準備する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。</p> <p>④復習（120分） PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。</p>
13	<p>①授業テーマ 災害ロジスティクス（2）BCP・BCM</p> <p>②授業概要 ロジスティクス分野のBCP・BCM（事業継続）の取り組みと課題について考える（E1, I1）。</p> <p>③予習（120分） PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』（10）～（12）を通読する。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。</p> <p>④復習（120分） PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。</p>
14	<p>①授業テーマ 災害ロジスティクス（3）緊急支援物資・医療物資輸送</p> <p>②授業概要 緊急支援物資・医療物資輸送を中心としたソーシャル・ロジスティクスの現状と課題について考える（E1, I1）。</p> <p>③予習（120分） 1995年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災及び2016年の熊本地震の各例を対比しつつ、広域災害支援のあり方とロジスティクスの機能について、課題と展望をまとめる。フォームA～Iのうちの1つを用いて、学修内容の位置付け、又はキーワードの概念整理を行う。</p> <p>④復習（120分） PDF教材及び講義ノートを通読したうえで、予習で用いたフォームを完成させる。</p>
15	<p>①授業テーマ サマリー</p> <p>②授業概要 半年間の講義を総括する（E1, I1・2）。</p> <p>第3回レポートを設定します。1週間後を締め切りとし、過去の大規模災害に学びつつ、実効的な災害ロジスティクスを提案することを内容とする論述課題とします。締切後、模範解答の説明を含む問題解説を共有します。</p> <p>③予習（120分） PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』（1）～（14）を通読する。フォームH「TRACオーガナイザー『大震災におけるロジスティクス』」を準備する。</p> <p>④復習（120分） 自己のキャリアプラン、興味関心に即して、本講で学んだ概念、手法を用いたロジスティクスレポートを作成してみましょう。例えば、実家が農家であり、卒業後もJAに勤める希</p>

	望のため、地場産品の普及のための「コールドチェーン」企画書をまとめる、といったことです。
関連科目	「企業取引と法（ロジスティクス法）RMGT2351」（2年次後学期配当）は、ロジスティクスの法的な側面を扱うものとして、本講と密接に関係します。
教科書	<p>■PDF教材『現代ロジスティクスの動態と法』の該当箇所を、授業共有ファイルからダウンロードして持参してください。PDFのまま、教室でPC・タブレットを使用して閲覧することを認めます。</p> <p>■グラフィック・オーガナイザー（①新しい知識と既存の知識との関連付けのためのものとして、フォームA（KWLチャート（1）個人用）、フォームB（KWLチャート（2）グループ用）、フォームC（KWLHAQチャート）。②新しい知識の入力・活用に関するものとして、フォームD（3エントリー・ジャーナル）、フォームE（STOP&JOTワークシート）、フォームF（VENNダイアグラム）、フォームG（FRAYERモデル）。③知識の出力・表現に関するものとして、フォームH（TRACオーガナイザー）、フォームI（5ステップ・アウトライン・オーガナイザー）の計9種）のうちの該当フォームを、授業共有ファイルからダウンロードして持参してください。各フォームはテキスト入力可能なPDF形式であり、教室でのPC・タブレットでの使用が可能です。</p>
参考書・参考URL	<p>苦瀬博仁『ロジスティクス概論』（白桃書房、東京、2014年）</p> <p>国土交通省オープンデータ：http://www.mlit.go.jp/statistics/</p> <p>Jean-Paul Rodrigue et al., The Geography of Transport Systems (4th ed., Routledge, New York)</p> <p>メディアサイト：https://transportgeography.org/</p>
連絡先・オフィスアワー	<p>■連絡先 開講時に告知します。</p> <p>■オフィスアワー 前学期：金曜4限、後学期：水曜3限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。</p>
研究比率	<p>■危機管理領域との対応 災害マネジメント40%；パブリックセキュリティ15%；グローバルセキュリティ30%；情報セキュリティ15%</p> <p>■危機管理と法学とのバランス 危機管理90%；法学10%</p>

